

弟子になろうと思つたら

(ルカ14・25～33)

一、「弟子になる」をめぐる

今日の聖書箇所を見てまいります。

25節、26節です。さて、大勢の群衆がイエスと一緒に歩いてきたが、イエスは振り向いて彼らに言われた。「わたしのもとに来て、自分の父、母、妻子、兄弟、姉妹、さらに自分のいのちまでも憎まないなら、わたしの弟子になることはできません。」とあります。

主はどういう意味でおっしゃったのでしょうか。主イエスを信じるとは、文字通りに、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分のいのちまでも憎むことなのでしょうか。そして、ひたすら「イエスさま、イエスさま」と唱えて、お従いして行くことなのでしょうか。そういう意味でないことは、すぐに察しが付きます。

ならば、どういう意味でおっしゃったのでしょうか。主がおっしゃったことを受け止めるために助けとなる聖句があります。ルカの福音書16章13節です。ごんなしもべも二人の主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛することになるか、一方を重んじて他方を軽んじることになりません。あなたがたは、神と富とに仕えることはできません。と語られています。

そういうわけで、「主イエスさまを信じます。主イエスさまにお従いして行きます」と言いながら、実のところは、「イエスさまを信じることによって家庭の中が平和になり、自分自身も教会に属するようになってから喜びの生活がもたらされるから信じます」と言うなら、そういう思いは憎んで然りである、ということでは。

二、「弟子になる」とは

25節に戻ります。さて、大勢の群衆がイエスと一緒に歩いてきたが、イエスは振り向いて彼らに言われた。とあります。主が語られたのは、なんと、群衆でした。

教会に、キリスト教にそれなりに心を開いておられる方が訪ねて来たと思います。あるいは、だれかに誘われて、礼拝に出席された方があったとします。その方に向かって、「イエスさまを信じようと思つたら、自分の父、母、妻子、兄弟、姉妹よりも、神のことを優先させなければなりません」と言うのでしょうか。そんな、つまづきを与えることばは、語ることができません。その方の信仰が深まって行く中で、聖霊の取り扱ひの中で、「神のことを優先することか、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹が祝福されることにつながる」と分かるように論じて行くのが、私たちの採るアプローチがと思われるからです。です

が、主のことばを下手に割り引いてはならないと考えます。

主が語らんとされたことは、弟子になろうと思つたら、この世の繁栄を受けたいがためにそうするなら、当たっていないということでは。主は語られました。27節です。自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしの弟子になることはできません。」と。

一方で主は、ルカの福音書18章29節、30節で、次のようにおっしゃっています。イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに言います。だれでも、神の国のために、家、妻、兄弟、両親、子どもを捨てた者は、必ずこの世で、その何倍も受け、来たるべき世で、永遠のいのちを受けます。」と。

三、不思議なたとえ

きょう与えられた聖書箇所の範囲において、主イエスが語らんとされていることの意味は、おおよそつかめたと思われます。そのことを語らんがために語られた二つのたとえを見てまいります。

一つは、塔のたとえです。28節、29節、30節です。ルカ14・28～30。塔を建てようとするときとは、神殿建設ないしは会堂建築ではなく、一般的な建築の場合のことを思い描いたらよろしいかと思えます。昔も今も十分に計算をして取りかかるのが普通です。な

ぜなら、途中で挫折してしまつたら、昔も今も恥ずかしい話だからです。

もう一つのたとえは、戦いの場合のたとえです。31節、32節です。ルカ14・31～32。当時の時代において、敵が二万人の兵力で攻めてくる場合、こちら側に一万人の兵力しかない、しかも奇襲攻撃に出るなどの得策もない場合は、負けることが目に見えていまずから、相手が攻めてくる前に和平を申し出るのが普通でありましょう。

では、主イエスが語られた「わたしののもとに来て、自分の父、母、……わたしの弟子になることはできません。」とこの二つのたとえは、どのように関係しているのでしょうか。それは、「弟子になる」「主イエスを信じる」とは、「信じたらこんなに良いことがあるだろうな」と思い描いて弟子になるなら、すなわち信仰を持つなら、途中で挫折してしまつということでは。そうすると、家族を始め、周りの人は言うのでありましょう。「○○さんは、クリスチャンになつたぞうだけれど、途中で止めてしまつた。教会に行き始めた頃は熱心だったんだけれど、キリスト教は合わなかつたんだらうね」となります。恥ずかしい話です。ゆえに、33節で語られました。そういうわけで、自分の財産すべてを捨てなければ、あなたがたはだれも、わたしの弟子になることはできません。」と。